

葉桜の頃

俵万智

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

仙台は葉桜の季節。最後の花びらたちが、はらはらと、あるかなきかの風にさえ散ってゆく。一緒に歩いていた叔母が「なんだか①フケみたいねえ。」と、あまりロマンチックでないとえを口にした。

そういえば最近友人から来たメールには、「こちらの桜はもう、かなり緑が伸び、②ひげがうっすら生え始めた中学生男子、みたいなちよつと「A」ビジュアルになっています。」とあった。これもまた、言い得て妙ではあるけれど、ロマンチックではない。

桜を楽しんだあとの、③夢から覚めたような感覚が、このように「B」ではない。ヒュをもたらすのだろうか。

④さくらさくらさくら咲き初め咲き終わり何もなかったような公園

樹木だって現実をしつかり見つめて、次なる葉っぱを、せっせと出している。そこを、あえて夢見がちに言うとするれば、みずみずしい葉桜のみどりは、やんちゃな幼児を思わせる。満開の桜のピンクのふわふわは、「C」の色だった。そんな葉桜を楽しむに、我が家のやんちゃな幼児と一緒に、散歩に出かけた。同じ川べりの桜でも、日当たりによって、ビミョウに状態が違うのがおもしろい。すっかりみごとな「D」ぐらいの葉桜もいれば、まだかわい花びらを残している桜もいる。

足もとには、育ちすぎたつくしが群生していて、⑤働き盛りのサラリーマンが一斉に横断歩道を渡っているような風情だ。春の初めの頃には、キミたちも初々しい坊やみたいだったのにね。

それにしても、たくましい。アスファルトの「端」を、めりめりと地中から盛り上げるようにして、つくしたちは顔を出している。息子が「がんばれー、手伝ってあげるよー。」と声をかけながら、アスファルトをめくりあげると(どうも、柔らかめのアスファルトのようだ)、その下にも、さらにつくしの予備軍がいて、びっくりした。

たんぼぼも、まだまだ咲いている。つくしやたんぼぼというと、春先のイメージが強いが、現実には歳時記よりもフレキシブルだ。それが、歩いてみるとよくわかる。

⑥立ち止まりしやがんでみようたんぼぼが世界を見ている高さになって

日陰で、育ちの悪い桜から、ちらちらと最後の花びらが落ちてきた。それを見上げた息子が「つくしさんが、ありがとうって言えないから、かわりに桜さんが、ありがとうって、花びらで言ってくれたんだね。」とつぶやく。幼い子どもは、詩人だ。「フケ」とか言っていた叔母に、今度聞かせてやろう。

問一 二重傍線 a～f の漢字はその読みを平仮名で示し、片仮名は漢字に直しなさい。

問二 傍線①「フケ」・②「ひげがうっすら生え始めた中学生男子」とは、何のどのような様子を言っているのか。最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 桜の花がほころび始めている様子。

イ 桜の緑の葉がひよろひよろと伸びてきた様子。

ウ 桜の花がさかんに散っていく様子。

エ 桜の緑の葉がだんだん色づいていく様子。

オ 桜の花がはらりと風に舞って散る様子。

問三 「A」に入る語句として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 美しい イ 立派な ウ たくましい エ 恥ずかしい

問四 傍線③「夢から覚めたような感覚」とはどのような感覚か。具体的に説明しなさい。

問五 「「B」に入る語を、文中から六文字で抜き出しなさい。

問六 傍線④・⑥について、次の問いに答えなさい。

(1) 傍線④の短歌に用いられている修辞法は何か。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 隠喩 イ 体言止め ウ 倒置法 エ 擬人法

(2) 傍線④・⑥の短歌に共通する修辞法は何か。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 省略 イ 対句 ウ 字足らず エ 字余り

(3) 傍線④・⑥の短歌について説明した文として、最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 傍線④の短歌では、桜の季節が終わっていく寂しさを、知人たちのユーモラスな比喻を引用しながら紹介しているが、傍線⑥の短歌では、筆者の息子が発見した新しいものの見方を読者に紹介することで、新しい世代が築く明るい未来を予感させている。

イ 傍線④の短歌では、桜の季節が終わるとロマンチックではない現実が待っていると述べて、読者をいったん失望させているが、傍線⑥の短歌では、たんぼが健気に咲いている姿を描くことで、地道な努力によって未来は花開くと読者をはげましている。

ウ 傍線④の短歌では、桜の時期が終わる人への訪れが絶えた公園の情景を通じて、現実のむなしさをしみじみと詠んでいるが、傍線⑥の短歌では、桜とは違った春の植物の咲く姿を描き、現実も決して捨てたものではないと読者をもりたてている。

エ 傍線④の短歌では、桜の時期の終わりのもの寂しさを描き、ものごとには全て終わりがあることを示しているが、傍線⑥の短歌では、新しいものの見方を読者に訴えかけることで、これからの未来に目を向ける明るい読後感を与えている。

問七 「「C」・「D」に入る語句として最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 老人 イ 母親 ウ 赤ちゃん エ 父親 オ 男子高校生

問八 傍線⑤「働き盛りのサラリーマンが一斉に横断歩道を渡っているような風情」とは、何のどのような状態を表現したもののか、説明しなさい。

問九 傍線⑥「立ち止まりしゃがんでみようとたんぼが世界を見ている高さになって」の短歌に用いられている修辞法は何か。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 隠喩 イ 体言止め ウ リフレイン エ 擬人法

〈解答〉

問一 a いっしょ b おぼ c の d 比喩 e 微妙 f はし

問二 ① オ ② イ

問三 エ

問四 桜の花を見ていられた日々が夢のようにすばらしく、それが終わってしまうと色あせた現実が待っているというつまらなさ。

問五 ロマンチック

問六 (1) イ

(2) エ

(3) エ

問七 C ウ D オ

問八 勢いよく成長したたくさんのつくしの、足もと一帯に生えている状態。

問九 エ

〈解説〉

問一 ①は、花があらかた散ってしまい、残りの花びらがはらはらと散って、木には花びらが少ししか残っていない様子を表している。アは「ほころび始めている」が誤り。「ほころび始める」とは咲き始める様子のこと。ウは「さかんに散っていく」が誤り。②は、直前の「緑が伸び」や、「うつすら」、「中学生男子」などから、細い葉っぱがひよろひよろと伸びている様子が読み取れる。エは「葉がだんだん色づいていく」が文中にない。

問二 「ひげがうつすら生え始めた中学生男子」のことを指している。また、あとで「ロマンチックではない」と、その言い方を否定的に見ていることもおさえる。問三で見たように、ここは細い葉っぱがひよろひよろと伸びている様子を表しているので、エ「恥ずかしい」が最適。

問四 「夢」は、花を見られていたときのすばらしさを表す。「夢から覚めた」は、花が散ってしまい、見られなくなったことを表している。夢のようなすばらしい時間が終わり、現実に戻されてがっかりした気分であることが読み取れる。

問五 直前に「このように」とあることに注目。叔母や友人の比喩に対して、筆者は「ロマンチック」で(は)ないと言っていることをおさえる。

問六

(1) 「公園」と体言で終わっており、体言止めが用いられている。

(2) 傍線④の短歌は第一句(さくらさくら)が、傍線⑥の短歌は第四句(世界を見ている)が、字余りになっている。

(3) 傍線④の短歌は、桜が咲き終わったあとのことを詠んでいる。対して、傍線⑥の短歌は、「たんぼぼが世界を見ている高さになって」みようと新しい視点を提示していることから、これからのことを詠んでいる未来志向の短歌であると言える。

問八 「働き盛りのサラリーマンが一斉に横断歩道を渡っているような風情」とは、「育ちすぎたつくしが群生して」いる様子をたとえた表現なので、「サラリーマン」は「つくし」のこと。「働き盛り」「一斉に横断歩道を渡っている」はつくしの生えている勢いや状態を表現している。

問九 「たんぼぼ」が「世界を見ている」とあり、人でないものを人のようにたとえていることから擬人法といえる。